

脊椎動物の分布上より見たる渡瀬線

黒田長禮

東京市赤坂區福吉町

我國に於ける脊椎動物の分布上顯著なる境界線は北方にありては有名なるブラキストン線(津輕海峽)と八田線(宗谷海峽)とであつて本州に入りては東海岸線(約北緯 35° 乃至 35° 10') である。然し是等の線は何れも古北區(Palæartic Region) 内に限られて居るが、更に重要なる境界線は古北區と東洋區(Oriental Region) との兩區の境を示すものである。この線は脊椎動物の分布上からは尾久島と奄美大島との間なる七島灘の渡瀬線であることは最早疑ひない處となつた。只無脊椎動物昆蟲類の分布上からは南九州と種子島との間なる三宅線であると主張されてゐるがこれに關しては余は専門外の爲め全く何等の批判を與へぬ。

扱て此渡瀬線の南北に於ける分布状態を見るに脊椎動物の屬丈けを取つて論じて見ると次の様になる。(勿論コスモポリタンの屬は考へに入れて居らぬ。)

I 鳥類

南九州より屋久島迄分布するもの	奄美大島以南に分布するもの
キジ屬 <i>Phasianus</i>	ノグチゲラ屬 <i>Sapheopipo</i> (沖縄本島特産)
カケス屬 <i>Garrulus</i>	ルリカケス屬 <i>Lalocitta</i> (奄美大島と徳之島特産)
	リウキウガモ渡 <i>Dendrocygna</i> (沖縄島以南) ¹⁾

以上は渡瀬線に直接關係のある屬丈けであるがこれ以上南には東洋區系の屬が濃厚となりシロガシラ屬 *Pycnonotus*, カンムリワシ屬 *Spilornis* 及キンバト屬 *Chalcophaps* の三屬が石垣島以南に分布する。上記の内キジ屬 *Phasianus* 及びカケス屬 *Garrulus* は共に再び臺灣島に現はれるが、此は大陸と關係があるので種としては全く相異なるものである。

次に種又は亞種として奄美大島以南に特産するものには

奄美大島特産：ルリカケス *Lalocitta lidthi* (徳之島にも産す)、アマミヤマシギ *Scolopax mira*,²⁾ オーストンオホアカゲラ *Dryobates bucotos oustoni*, オホトラツグミ *Oreocincla dauma amami*.

奄美大島及以南産：リウキウツバメ *Hirundo tahitica namiyei*, タイワンカイツブリ *Podiceps ruficollis kunikyonis* (南大東島、石垣島及び臺灣に達す)。

1) 最近小林賢三氏(『鳥』第六卷第三十號、371 頁、1930) はリウキウガモが奄美大島に出現することがあると知人の話として報告した、此は直ちに信ずることは出来ぬが、若し然りとするも渡瀬線を北上しないことは同様である。

2) 従來亞種 *S. rusticola mira* として知られたが最近日本鳥學會評議員會に於て獨立種と認めることに意見一致を見た。

沖繩島及び以南産：ノグチゲラ *Sapheopipo noguchii*, リウキウガモ *Dendrocygna javanica* (石垣島及臺灣に産す)、リウキウオホコノハヅク *Otus bakamoena pryeri*, リウキウカラスバト *Janthoenas jouyi* (沖繩諸島及大東島)³⁾、ミヤコセウビン(宮古島)、リウキウオホクヒナ *Rallina eurizonoides sepiaria* (石垣島以南)、カンムリワシ *Spilornis cheela perplexus* (同上)、キンバト *Chalcophaps indica*, シロエリクロガシラ *Pycnonotus sinensis orii* (同上)⁴⁾

II 哺乳類

南九州より屋久島迄分布するもの	奄美大島以南に分布するもの
アカネズミ属 <i>Apodemus</i>	アマミノクロウサギ属 <i>Pentalagus</i> (奄美大島と徳之島特産)
イタチ属 <i>Lutreola</i>	ケナガネズミ属 <i>Lenothrix</i> (奄美大島、徳之島及沖繩島特産)
シカ属 <i>Sika</i> ⁵⁾	
サル属 <i>Pithecus</i> ⁶⁾	

次に種又は亞種として奄美大島以南に特産するものは、

ヤヘヤマオホカウモリ *Pteropus dasymallus* (沖繩本島より與那國島)、ダイタウオホカウモリ *Pteropus daitoensis* (大東列島)、オキナホオホカウモリ *Pteropus loochooensis* (沖繩本島)、ワタセヂネズミ *Crocidura watasei* (奄美大島、恐らく沖繩島)、アマミノクロウサギ *Pentalagus furnessi* (奄美大島及徳之島)、ケナガネズミ *Lenothrix legata* (奄美大島、徳之島及沖繩島)、?トゲネズミ *Rattus coxinga* (臺灣産、奄美大島にて此種? 幼獣捕獲さる——岸田氏による)、リウキウイノシ *Sus leucomystax riukiuanus*.

III 爬虫類

南九州より屋久島迄分布するもの	奄美大島以南に分布するもの
マムシ属 <i>Ancistrodon</i> ⁷⁾	メクラヘビ属 <i>Typhlops</i> (沖繩島以南)
イシガメ属 <i>Clemys</i> (九州迄)	アヲヘビ属 <i>Liopeltis</i> (奄美大島以南)
	ハナナシ属 <i>Calamaria</i> (沖繩島以南)
	ヒヤン属 <i>Hemibungarus</i> (奄美大島以南)
	ユーブレフアリス属 <i>Eublepharis</i> (渡名喜島)
	ハブ属 <i>Trimeresurus</i> (同上)
	トゲヤモリ属 <i>Hemilactylus</i> (沖繩島以南)
	キノボリトカゲ属 <i>Japalura</i> (奄美大島以南)
	スベトカゲ属 <i>Leiopisma</i> (沖繩島以南) ⁸⁾
	ヘリグロヒメトカゲ属 <i>Lygosaurus</i> (沖繩島)
	ヤマガメ属 <i>Geoemyda</i> (沖繩島以南)
	ハコガメ属 <i>Cyclemys</i> (石垣島、臺灣、支那)

3) 予は亞種と見ず種と認めし。

4) ヤヘヤマシロガシラ *P. sinensis kobayashii* は *orii* のシノニムと假認す。

5) *Sika nippon* var. *keramae* (慶良間群島) は薩摩より移入の變種につき奄美以南に自然に棲息したものでない。

6) 臺灣島に同一属が産す。而し奄美以南の琉球諸島には棲息しない。

7) 奄美大島及中部琉球諸島に産せず。八重山郡島に近似亞種再現す。

8) アメリカにも分布す。

次に種又は亞種として奄美大島以南に特産するものは、

メクラヘビ *Typhlops braminus* (沖繩島以南)、カラスヘビ *Natrix pryeri* (沖繩島以南)、リウキウクロヘビ *Achalinus werneri* (奄美大島)、リウキウアヲダイシヤウ *Elaphe schmackeri* (宮古島以南)、オキナハアヲヘビ *Liopeltis semicarinata* (沖繩島以南)、サキシマアヲヘビ *Liopeltis herminae* (宮古島及石垣島)、アマガサモドキ *Dinodon rufozonatum walli* (宮古島以南)、アカマタ *Dinodon semicarinatum* (奄美大島及沖繩島)、リウキウハナナシ *Calamaria pfefferi* (沖繩島及宮古島)、ヒヤン *Hemibungarus japonicus* (奄美大島)、オキナハハアイ *Hemibungarus boettgeri* (沖繩島)、ヤヘヤママムシ *Ancistrodon blomhoffi? affinis* (八重山群島)、サキシマハブ *Trimeresurus elegans* (八重山群島)、ハブ *Trimeresurus flavoviridis* (奄美大島及び沖繩島)、ヒメハブ *Trimeresurus okinawensis* (同上)、ヤモリ一種 *Eublepharis orientalis* (渡名喜島)⁹⁾、ホウグロヤモリ *Hemidactylus frenatus* (沖繩島以南)、タシロヤモリ *Hemidactylus lowringii* (石垣島及臺灣)、ヤモリ一種 *Peropus mutilatus* (琉球諸島、臺灣)、キノボリトカゲ *Japalura polygonata* (沖繩島以南)、オキナハトカゲ *Eumeces marginatus* (同上) キシノウヘトカゲ *Eumeces kishinouyei* (宮古、石垣、入表各島)、スベトカゲ *Leiolopisma laterale* (沖繩島以南)、ヘリグロヒメトカゲ *Lygosaurus pellopleurus* (沖繩島)、サキシマカナヘビ *Takydromus dorsalis* (石垣島)、アヲカナヘビ *Takydromus smaragdinus* (沖繩本島、宮古島)。

IV 兩棲類

南九州より屋久島迄分布するもの	奄美大島以南に分布するもの
ハコネサンセウウヲ属 <i>Onychodactylus</i> アマガヘル属 <i>Hyla</i>	トゲイモリ属 <i>Tylototriton</i> (徳之島及沖繩本島) ヒメアマガヘル属 <i>Microhyla</i> (奄美大島以南)

次に種として奄美大島以南に分布特産するもの、

トゲイモリ *Tylototriton andersoni* (徳之島及沖繩本島)、シリケンイモリ *Diemictylus ensicauda* (奄美大島及沖繩島)、ヒメアマガヘル *Microhyla fissipes* (奄美大島、沖繩島、臺灣)、ナミエガヘル *Rana namiyei* (奄美大島及沖繩島)、ホルストカヘル *Rana holsti* (沖繩本島)、オキナハカジ *Rana ijimae* (沖繩本島)、イシカハカヘル *Rana ishikawae* (同上)、*Rana narina* (同上)、アヲガヘル *Rhacophorus viridis* (奄美大島、沖繩及臺灣)、オーストンアヲガヘル *Rhacophorus*

9) MAKI: A new banded Gecko, *Eublepharis orientalis* sp. nov. from Riu-kiu Islands. Annot. Zool. Japon, vol. 13, no. 1, pp. 9-11, pl. I. (1930).

owstoni (宮古島及石垣島、?臺灣)、ニホンカジカガヘル *Polypedates japonicus* (奄美大島、沖縄島及臺灣)。

以上は奄美大島以南臺灣に達する迄の間に分布特産する脊椎動物¹⁰⁾ 一般に互り屬としての重要な分布上の屬並びに種又は亞種として奄美大島以南に分布するものを列擧したのである。以上によりても知らるる通り渡瀬線以南には如何に多くの種類が特産し多くは東洋區系の動物を以て占有してゐるかが明となつてゐる。鳥類の二屬、哺乳類の三屬、爬蟲類の十二屬及び兩棲類の二屬は何づれもこの渡瀬線から北方には分布せぬものである。

動物分布の外地質學上から見ても古藤、徳永兩博士の研究によると琉球弧島は三條の同心圓のカーブを形成し其中東の列を外側と考へると内側の方の地質は極新らしくネオ・ザオルカニククのオリジンから出來てゐてその狭い範圍に碁布してゐる島々は竹の島、琉黄ヶ島、口永良部島、川邊七島、粟國島、久米島(これは少し疑はしい)尖閣列島で是等の島々には特有の陸産鳥獸類(恐らく爬蟲、兩棲類も)少なく分布上からは價値が少い。中央のカーブにある島々は尾久島、奄美大島、徳之島、沖永良部島、與論島(以上三島は少し疑はしい)であつて何づれも古生代のもので沖縄本島の北の一部も亦此地質に屬するが下方は新しいものに屬する。次に外側帯の地質は其次に古く第三紀或は第四紀の地質から成つてゐる。北から書くと馬毛島、種子島、喜界ヶ島(此は少し疑はしい)、沖縄本島の南部、宮古島、西表島附屬の島嶼(西表島の大部分は古生代)、及び與那國島である。斯く地質上三通りに異つてゐる島々にゐる鳥獸類其の他が皆多くは夫々の特徴を有し特に中央のグループの島々が地質が最も古い爲めに非常に面白くサル、イタチ、シカ、キジ、カケス等の各屬が屋久島迄分布し、これ以南は全くなくアマミノクロウサギ、ケナガネズミ、ルリカケス、ノグチゲラ(沖縄本島北部地方に限らるるが如し)等の各屬が現はれ何れも東洋區系の色彩が濃厚である。他の爬蟲、兩棲類にあつても同様の結果を示して居る。

即ちこれを結論するに渡瀬線は脊椎動物の分布上古北區と東洋區との境界を明かに示すものであると言はざるを得ない。

今回恩師渡瀬先生の記念號が出版せらるるに當り一九一二年に先生が寶群島の七島灘を以て古北區を東洋區の動物分布境界を示されたるを永遠に記念せんが爲め予の調査し得たる以上の記事を掲げ以て先生の英靈に捧げんとするものである。

10) 海蛇類及魚類を除く。